

2013年10月号

10月15日(火)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 205



色づく湿原…

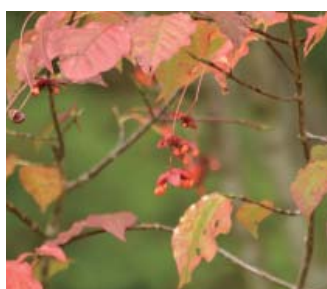
花が姿を消し、旅鳥たちが木道上空を通過する秋、人影が少なくなった湿原は日に日に姿を変えていきます。茶色くなるもの、赤くなるもの、黄色くなるもの、朝露をまとい黄金色に輝くもの…。釧路湿原はほんのひと時、華やかなモザイク模様に変わります。

短い夏が終わり、長く厳しい冬を迎えようとしています。

～温根内ビジターセンター木道周辺の自然情報～



～温根内ビジターセンター周辺の植物～



【オオツリバナ(実)】
 大吊花 ニシキギ科
 鶴居軌道跡で見られます。
 春の花は目立ちませんが、
 秋になると赤く熟し中から
 朱色の実が姿を現します。
 葉も見事に紅葉します。



【カラフトノダイオウ(葉)】
 樺太野大黃 タデ科
 8月に緑色の地味な花を
 咲かせるこの植物は、一
 面茶色くなった秋のスゲ
 湿原内で葉を赤くし、目
 を引く存在に変わります。



【イタヤカエデ(実)】
 板屋楓 カエデ科
 黄葉する葉がきれいなイ
 タヤカエデは鶴居軌道跡
 で見られます。翼をつい
 だ実は風を受けてクルク
 ル回りながら落下します。



【オオウバコリ(実)】
 大姥百合 ユリ科
 エゾシカの食害を免れたいく
 つかの株が実をつけています。
 中こはぎゅーと種が詰まっ
 いて、試みに数えてみると、一
 房に661個も入っていました。

○温根内木道周辺で確認された花(9月15日～10月14日) ※和名は五十音順

■アキノウナギツカミ ■アメリカセンダングサ ■イチゲフウロ ■イヌタデ ■ウメバチソウ ■エゾオオヤマハコベ ■エ
 ソノコギリソウ ■エゾリンドウ ■オオダイコンソウ ■カタバミ ■キツネノボタン ■ゲンノショウコ ■コウゾリナ ■コ
 ガネギク ■ゴキツル ■サウギキョウ ■シオガマギク ■シロツメクサ ■セイヨウタンポポ ■タニソバ ■チドリケマン ■
 ナガボノシロワレモコウ ■ナギナタコウジュ ■ハナタデ ■ハンゴンソウ ■ヒメショオン ■ヘラバヒメジョオン ■ホソ
 バアカバナ ■ミズ ■ミゾソバ ■ミツガシワ(季節外れ) ■ムラサキツメクサ ■メマツヨイグサ ■ヤマハハコ

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、植生保護のため、木道から降りて
 写真を撮ることはおやめください。みなさまが気持ちよく散策・観察できるよう、ご理解とご協力をお願いします。

*表紙の写真 上:ミズナラの黄葉 中左:オオジュリン(冬羽) 中右:ツリバナ(実) 下:ヌメリスギタケモドキ(ヤナギタケ)

～温根内ビジターセンター周辺の鳥～

落葉が進み、鳥が見易くなってきました。温根内木道東の赤沼ではヒシクイやオオハクチョウが南への渡り途中で羽を休めています。カケスも人里に下りてきました。カラ類も混群を作っているにぎやかです。



【エナガ】
柄長 エナガ科
可愛らしい真っ白い顔と長い尾で臍になっている野鳥好きも多いはず。北海道は垂種シマエナガで、ビジターセンター周辺で見られます。留鳥



【ベニマシコ（♀）】
紅猿子 アトリ科
雄に比べて雌は地味な色をしています。雄同様「ピッポ…」というわかり易い声でその存在に気づきます。夏鳥（一部越冬する個体もいます）



【オオジュリン（♂冬羽）】
大寿林 ホオジロ科
夏の間は黒い頭と黒い前掛けをしていて別の鳥のようですが、越冬地へと旅立つ頃には地味な冬羽に換羽しています。夏鳥



【オオハクチョウ】
大白鳥 カモ科
温根内木道東の赤沼で渡りの途中に羽を休めています。朝夕に木道上空を飛ぶ姿を確認できます。湿原が凍りつく12月末頃までが見ごろです。

○温根内木道周辺で観察された鳥（9月15日～10月14日）※和名は日本鳥類目録第7版の順

■ヒシクイ■マガン■オオハクチョウ■キジバト■アオバト■アオサギ■タンチョウ■カッコウ（幼鳥、死体）■トビ■オジロワシ■ハイタカ■オオタカ■ノスリ■フクロウ（声）■コゲラ■アカゲラ■モズ■チゴハヤブサ■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ハシブトガラ■ヒガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■ウグイス■エナガ■コヨシキリ■ゴジュウカラ■キバシリ■クロツグミ■ツグミ■ノゴマ■ノビタキ■ピンズイ■カワラヒワ■ベニマシコ■アオジ■オオジュリン

☆☆☆温根内木道 旬の自然を楽しもう♪「植物の果実探し」☆☆☆

「今、湿原には何も無いよね？」と聞かれることが多くなりました。

花が終わり、鳥のさえずりも聞こえないこの時期は、荒涼とした湿原を眺めるだけで（それも良いのですが）、他に何も無いと思っている来訪者が多いようです。はるばる北海道の東、釧路湿原まで来てくれたのに、ただただ景色を眺めて帰るだけではもったいないので、花が咲き、鳥がさえずる来春までの間は、その季節おすすめの温根内木道の楽しみ方を毎月ご紹介していきたいと思います。



ガマは綿毛をつけて風の力を利用して種を運びます。

○今月は「実りの秋」ということで、「植物の果実探し」をご紹介します。そもそも果実って何でしょうか？植物にとって果実の中には種を保護するとともに種を運ぶ役割もしています。果実というと果物を想像しますが、想像通り多肉質で食べると甘くておいしいものから、おいしそうに見える果実は実は毒をもっていたり、乾いていて一見種のように見えたり、翼のようなものが付いていたり、ねばねばしていたりと多種多様です。

そんな果実をじっくりと観察してみると、植物がどうしていろいろな果実を实らせるのかが見えてきます。

例えば秋の湿原でフランクフルトのような穂で私たちの目を楽しませてくれるガマは、ふわふわの綿毛で風を受けて種を遠くまで飛ばします。果実に翼をもつヤチダモや（裏面へ続く）



私たちが食べてもおいしいヤマブドウは動物に食べられることで種を遠くまで運びます。

カエデの仲間も風を受けて種を運びます。

ヤマブドウやコクワ(サルナシ)はおいしい液果(えきか)で動物を誘い、食べてもらう事により、種を遠くへ運んでもらいます。

バラ科のキンミズヒキやセリ科のヤブジラミの果実は、とげとげした鉤爪のようなもので動物にくっついて遠くへ運ばれます。



マムシグサは一見するとおいしそう(?)ですが実は毒があります。湿原周辺には毒のある実もあるので注意が必要です。

この他にも、自分で弾けて種を飛ばしたり、水の流れを利用したり、そのまま落ちたりなど様々です。

釧路湿原の花の季節は終わりましたが、春から夏にかけて美しい姿で湿原を演出していた花たちは、今はその姿を変えています。一見何もないように見えて、注意して見ないと見過ごしてしまいますが、秋は釧路湿原の厳しい環境に適応した植物たちの子孫を遺すためのさまざまな戦略を間近で見ることができる絶好の季節なのです。

秋の実りを見つけていろいろと想像してみると、きっと「何もない」ように見える温根内木道で、楽しみをたくさん見つけれられるはずですよ。



イタヤカエデはプロペラのような翼をつけてクルクルと落下します。



どんぐり(ミズナラ)はどうやって実を運ぶのでしょうか?

☆☆☆☆☆イベントのご案内(11月) 事前の申し込みが必要です☆☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込みはこちらまで ☎ 0154-65-2323

♪自然からの贈り物でいろいろ工作

〔日時〕11月10日(日) 13:00～15:00

〔定員〕15名(小学生は保護者同伴)

〔参加費〕無料

〔場所〕温根内ビジターセンター

ビジターセンター周辺には落ち葉や木の实などたくさん自然からの贈り物があります。そんな贈り物を使ってお気に入りのオリジナルグッズを作りましょう。

○塘路湖エコミュージアムセンター(あるこっと)

⇒お申し込みはこちらまで ☎ 015-487-3003

♪ムックリ(口琴)を作ろう

〔日時〕11月9日(土) 13:00～15:00

〔定員〕15名(小学生は保護者同伴)

〔参加費〕無料

〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター(あるこっと)

竹を使ってアイヌの伝統的な楽器を作ります。神秘的な音色を奏でてみましょう。

※近隣施設の釧路市湿原展望台の遊歩道が損壊のため一部閉鎖になっております。温根内から湿原展望台まで歩く場合は注意が必要です。詳細は湿原展望台までお問い合わせください。Tel 0154-56-2424

～開館時間が変わります～

冬期間(11/1～3/31)は開館時間が変更になります。冬季開館時間は10:00～16:00です。ビジターセンターご利用の際にはご注意ください。どうぞよろしくお願いいたします。なお、冬期間は日没が早いので、木道をご利用の際は時間に余裕を持って暗くなる前にお戻りください。街灯等は一切ありませんので、真っ暗になり危険です。

月刊 温根内通信 No.205

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-0036

北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel: 0154-65-2323 Fax: 0154-65-2185

E-mail: ovc@hokkai.or.jp

開館時間: 10:00～17:00(11月～3月は16:00まで)

休館日: 毎週火曜日(夏季繁忙期を除く) 入館無料